

島本町文化財調査報告書

第39集

五反田遺跡発掘調査概要報告書

令和2年 6月
島本町教育委員会



序

本報告書は、原因者による学校増築工事に伴って、令和2年度に実施した五反田遺跡の発掘調査成果を報告するものです。

五反田遺跡は、令和元年度に実施した試掘調査で遺構・遺物の存在を確認し、令和元年11月に新たな埋蔵文化財包蔵地として登録されることとなりました。

令和2年4月から実施した発掘調査においては、本町では発見例の少ない古墳時代の遺構・遺物の存在を確認することができました。五反田遺跡の北西に広がる越谷遺跡では、古墳時代後期の遺物が出土しており、名神高速道路建設工事の際には古墳の副葬品と考えられるような遺物も出土しています。今回の発掘の成果は、桜井地区の古墳時代の様相を明らかとする一助となるものと考えます。

また、五反田遺跡以外にも、近年では、西浦門前遺跡・青葉遺跡B地点・尾山遺跡など新たな遺跡の発見が相次いでおり、既存の埋蔵文化財包蔵地外でも、古くから人々の生活が営まれていたことが明らかとなりました。今後も遺跡の範囲を正確に把握するため、埋蔵文化財の調査を進め、資料を蓄積していくとともに、既存の埋蔵文化財包蔵地の周知を行い、文化財の保護・啓発に努めることが私たちの大切な役目と考えます。

最後になりましたが、調査にあたりまして、多大なご指導、ご協力を賜りました関係諸機関の皆様、また発掘調査にご理解、ご協力いただきました近隣の皆様方には、紙面をおかりして深く感謝しお礼を申し上げますとともに、本町の文化財保護行政に対し、今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年 6月

島本町教育委員会
教育長 持田 学

例言

1. 本書は、島本町立第三小学校校舎建て替え工事に伴う、五反田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局教育こども部生涯学習課の木村友紀を主担当、株式会社アコードの中村毅を補佐担当者として実施し、令和2年4月1日に開始、同年6月30日、本書の刊行をもって完了した。
3. 調査および報告書作成において、下記の調査員・補助員の参加を得た
調査員 木村友紀 中村毅
補助員 鈴木貴久美 田邊好
4. 本書の編集・執筆は木村の監督のもと、中村が担当した。
5. 本調査に関わる資料の保管と活用及び本調査によって作成された資料などの管理は、島本町教育委員会がこれにあたる。
6. 現地調査および報告書作成にあたって、以下の関係機関の方々にご協力賜ったことを記して感謝の意を表します。
大阪府文化財保護課 株式会社アコード 株式会社島田組 松井建設株式会社

凡例

1. 本書で使用した座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第VI系に準拠し、日本測地系にて表記している。方位は座標北を示す。標高は東京湾平均海面（T.P.）を使用した。
2. 遺構番号は通し番号を付け、遺構の種別記号は以下の通りである。
 P = 柱穴 S K = 土坑 S D = 溝 N R = 自然流路
3. 土層・遺構埋土等の色調は『新版標準土色帖』2018年版 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を基準とした。
4. 本書の地図（第1図）と航空写真（写真7）は国土地理院ウェブサイトの地図・写真を使用し、一部加工したものである。

目次

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過 ······ ······ ······ ······ ······ 1

第2節 地理的・歴史的環境 ······ ······ ······ ······ ······ 3

第2章 調査の成果

第1節 基本層序と検出面 ······ ······ ······ ······ ······ 5

第2節 遺構 ······ ······ ······ ······ ······ ······ 9

第3節 遺物 ······ ······ ······ ······ ······ ······ 13

第3章 総括 ······ ······ ······ ······ ······ 14

参考文献 ······ ······ ······ ······ ······ 14

挿図目次

第1図	調査地の位置 ······ ······ ······ ······ ······	1
第2図	島本町内遺跡分布図 ······ ······ ······ ······ ······	4
第3図	調査区壁面土層断面図 1 ······ ······ ······ ······	5
第4図	調査区壁面土層断面図 2 ······ ······ ······ ······	6
第5図	調査区平面図（上面検出遺構） ······ ······ ······	7
第6図	調査区平面図（下面検出遺構） ······ ······ ······	8
第7図	溝 ······ ······ ······ ······ ······ ······	9
第8図	溝・流路 ······ ······ ······ ······ ······	10
第9図	柱穴 ······ ······ ······ ······ ······	11
第10図	土坑 ······ ······ ······ ······ ······	12
第11図	出土遺物 ······ ······ ······ ······ ······	13

写真目次

写真 1	調査前 ······ ······ ······ ······ ······	2
写真 2	表土掘削 ······ ······ ······ ······ ······	2
写真 3	遺構検出 ······ ······ ······ ······ ······	2
写真 4	測量 ······ ······ ······ ······ ······	2
写真 5	遺構掘削 ······ ······ ······ ······ ······	2
写真 6	北東突出部完掘 ······ ······ ······ ······ ······	2
写真 7	調査地周辺 ······ ······ ······ ······ ······	3
写真 8	調査地遠景 ······ ······ ······ ······ ······	14

写真図版目次

写真図版 1	1 検出全景（南西から）
	2 検出全景（北東から）
写真図版 2	1 検出全景（南東から）
	2 検出全景（南東から）
写真図版 3	1 完掘全景（南西から）
	2 完掘全景（北東から）
写真図版 4	1 完掘前景（南から）
	2 完掘前景（南東から）
写真図版 5	1 北西壁断面（南東から）
	2 西壁断面（東から）
	3 北東壁断面（西から）
写真図版 6	1 NRO1 完掘（南から）
	2 NR21 完掘（南から）

写真図版 7	1 P08～13 検出（南東から）
	2 P08～13 完掘（北から）
写真図版 8	1 調査区南部検出（南東から）
	2 調査区南部完掘（東から）
写真図版 9	1 SD15 断面（北西から）
	2 P04 半截断面（北東から）
	3 P09 半截断面（南から）
	4 P10 半截断面（西から）
	5 P18 検出（北から）
	6 P20 検出（北から）
写真図版 10	1 土師器
	2 須恵器



第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と経過

島本町教育委員会事務局より、文化財保護条例に基づき令和元年5月28日付けで「土木工事計画届出書」の提出があり、島本町立第三小学校において、増築工事及び仮設校舎設置工事を含め、建築面積合計約2,800m²の土木工事が計画されていることが明らかとなった。近辺に尾山遺跡や越谷遺跡があることから、令和元年5月31日付けで試掘調査を実施する旨を通知した。

試掘調査は、特に基礎の掘削が深い増築部分を対象として計8か所のグリッドを設定し、令和元年8月1日～令和元年8月5日の期間で実施した。試掘調査において、増築部分の南西端に位置するグリッドで、土師器・須恵器・黒色土器等の遺物を包含する土層の存在を確認した。この結果、当該地が令和元年11月に新たに埋蔵文化財包蔵地＝五反田遺跡として登録され、本調査に至った。

発掘調査は島本町教育委員会の監督のもと、第三小学校の増築工事及び仮設校舎設置工事の工程内で松井建設株式会社が委託を受け、令和2年4月に実施することになった。3月19日に現地打合せを行い、準備作業を進めた。現地調査は令和2年4月1日より開始であったが、当日が雨天のため、準備作業のみとなり、2日より重機による表土掘削が開始された。

調査区内には電気配線とガス管が埋設されており、これらを配慮しながら掘削を行った。特に前者は現在も利用しており、その下部は配線維持のため、調査対象外とした。当初は80m²の調査区が設定されていたが、校舎基礎付近や工事関係車両通過に伴う安全確保のため、調査区は当初の方形を確保できず、不整形となり、調査面積は64.23m²となった。

表土掘削完了後、調査区西北の細い部分（北東突出部と呼称=写真6）は壁面崩壊の危険も考慮し、先行して掘削・記録した。この部分の多くは搅乱（校舎建築時の客土に伴う擾乱か）を受けており、残存部には砂礫層が広がるものとの遺構・遺物はなかった。ただし、この砂礫層は後述するNRO1もしくはNR21であった可能性はある。



第1図 調査地の位置

試掘結果から、基盤層1面の調査とされていたが、一部包含層の上面からも遺構が認識され、調査区の北半を占める自然流路の下面から検出された遺構もあり、遺構図面は2段階に分けて作成した。ただし、全景撮影については、最終完掘全景1回のみである。

なお、調査記録はフルサイズのデジタルカメラと35mmモノクロフィルムで撮影し、実測図は電子平板などを用いたデジタル測量で実施した。

調査は順調に進み、4月15日に完掘全景を撮影、16日には壁面の記録等の補足調査を終え、埋め戻しを含め、17日に完了した。

その後、4月20日より調査記録と遺物の整理作業および本書の作成業務を開始。新型コロナウイルス流行に伴う緊急事態宣言発令中であり、可能な限りテレワークを実施し、業務を進めた。そして、令和2年6月30日、本書の刊行をもって、本調査を終了した。



写真1 調査前



写真2 表土掘削



写真3 遺構検出



写真4 測量



写真5 遺構掘削



写真6 北東突出部完掘

第2節 地理的・歴史的環境

島本町は大阪府の北東端、京都府との境に位置し、大阪府高槻市や京都府乙訓郡大山崎町と接している。町内の7割を山地が占め、南東部に淀川右岸の平野部が広がる。この地は古来より山陽道(西国街道)が通る交通の要所であり、現在も名神高速道路や東海道新幹線など多くの主要幹線が、町内山麓部から平野部にかけての東西2Kmにも満たないエリアを縦断している。

町内には現在29の遺跡が登録されており、いずれもが、町内南東部の山麓から平野部にかけて分布している(第2図)。古くは、山崎西遺跡において国府型ナイフ形石器などが採取されており、後期旧石器時代から人間活動の痕跡が確認されている。本調査区のすぐ西、山麓側にある越谷遺跡では、縄文後期の土器が出土しており、それ以降、弥生時代から中世に至る遺跡が確認されている。

島本町の歴史において特筆すべきは、水無瀬離宮の存在であろう。水無瀬離宮は、鎌倉時代に、承久の乱で有名な後鳥羽上皇など多くの皇族・貴族が訪れたと記録されている。水無瀬離宮に関連する蓋然性の高い遺構が、JR線と阪急電鉄線の間に広がる広瀬遺跡や名神高速に近い西浦門前遺跡などから見つかっている。

五反田遺跡は現在町立第三小学校のある地に位置し、右の昭和20年代の航空写真を見れば、西側の山地から延びる尾根の先端に立地している(写真7の黒い印)。

五反田遺跡周辺には複数の時期や性格の異なる遺跡が確認されている。すぐ西に位置する越谷遺跡では先述のように縄文時代後期の土器に加え、弥生時代から古墳時代の土器も確認されている。北側には尾山遺跡、飛鳥～奈良時代の御所池瓦窯跡がある。

水無瀬離宮に関しては、藤原定家が記した「明月記」などの文献によれば、建保四年(1216年)に、洪水によって水無瀬離宮が倒壊し、翌年から山上に場所を移して再建していることが記述されており、水無瀬殿山上御所と呼ばれる関連施設が山麓側にも展開していたとされる。上述の西浦門前遺跡は、これらに該当する蓋然性の高い遺跡である。五反田遺跡は西浦門前遺跡の700mほど南に位置し、これに関連する遺構が存在する可能性も考えられる。

五反田遺跡の位置する島本町は、古代の都となった山城盆地と大阪平野の境に位置し、常に両地域の接点もしくは移動経路として、点として線として多くの人々によって歴史が営まれ、人間活動の痕跡が刻まれてきたのである。

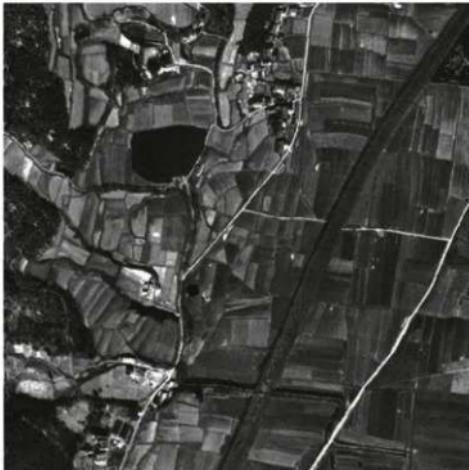
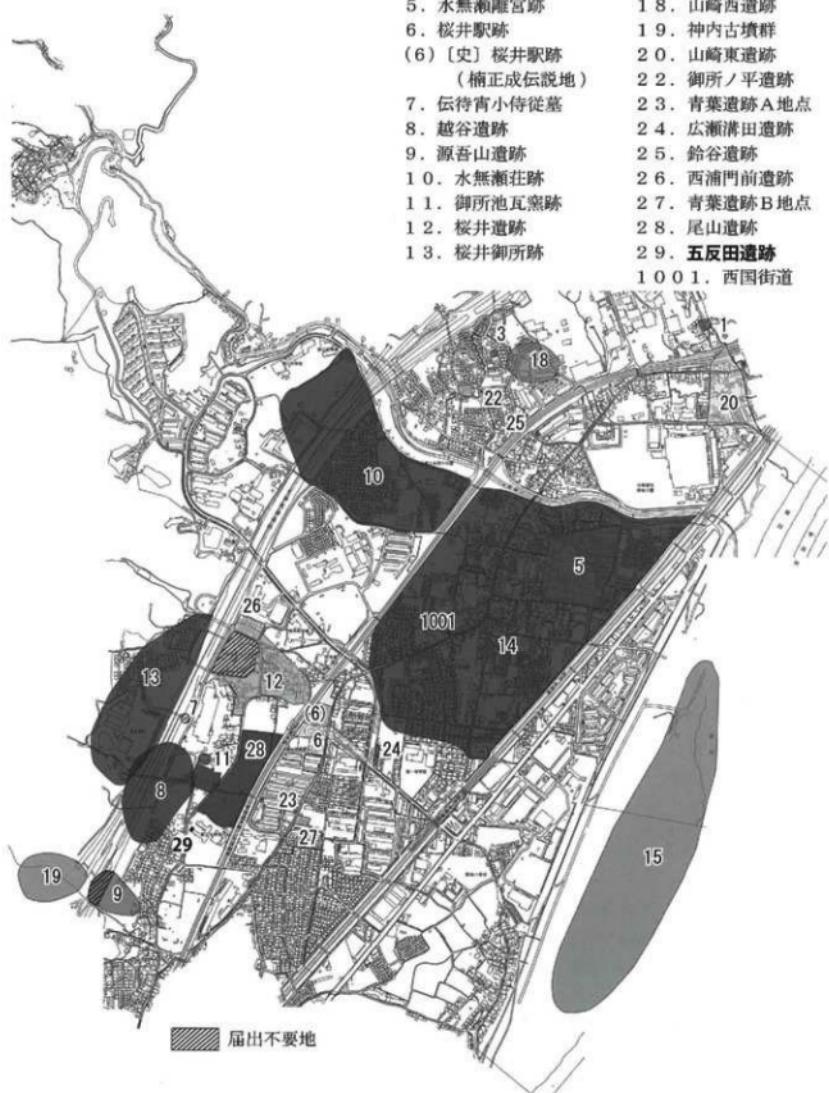


写真7 調査地周辺



第2図 島本町内遺跡分布図

第2章 調査の成果

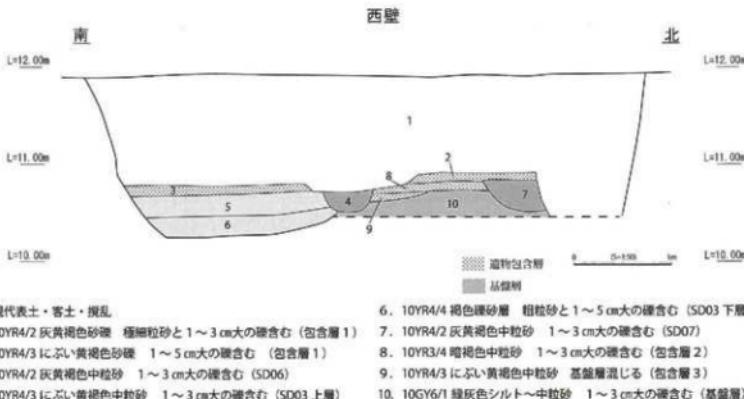
第1節 基本層序と検出面

調査区の基本層序は第3図や第4図の通りであり、地表下1.3mほどで緑灰色の基盤層（いわゆる地山面）が検出される。ただし、実際は調査区の大部分を自然流路（NR01）と擾乱が占め、このレベルで基盤層が見られたのは南側の一部のみであった。

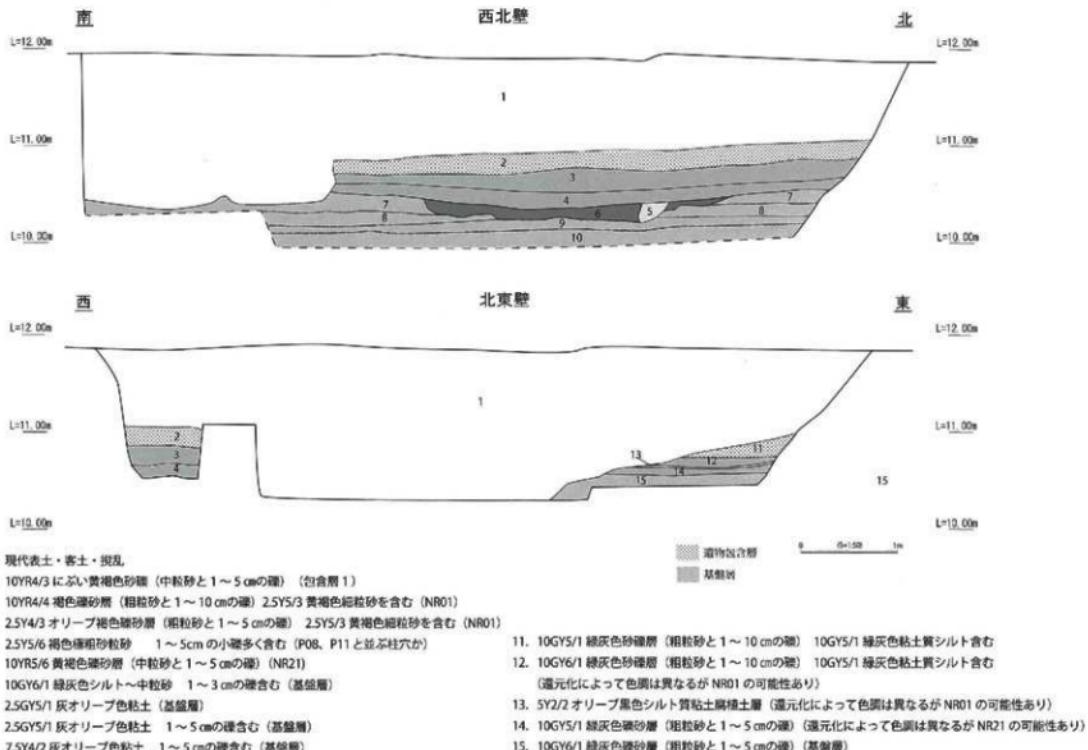
基盤層の上は、大部分が現代表土や客土、擾乱であるが、一部に遺物包含層が存在する。3つの包含層を認識したが、包含層1は、流水にともなう土砂堆積層と考えられ、あくまで遺物を包含する層というだけであり、その年代も不明である。包含層2については、その上面から遺構が存在している。包含層3は、壁面でのみで認識しており、遺構の可能性もある。

包含層2から遺構が存在することから、本来はその上面と基盤層上面の2面を調査対象とすべきであろうが、包含層2は非常に薄く、遺構のプランも明確に確認できないことから、基本的には基盤層上面まで掘削し、その段階から遺構検出を行った。

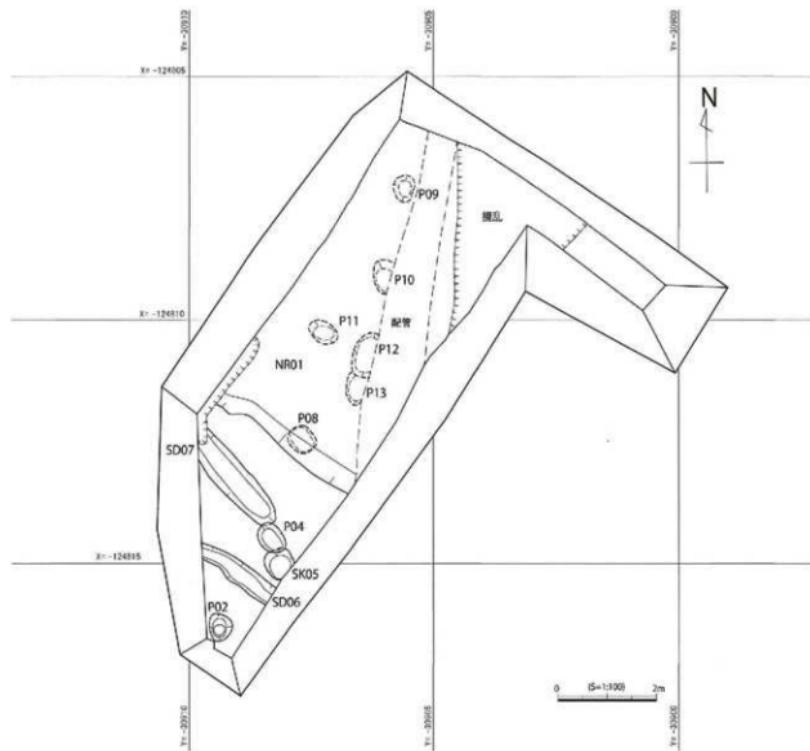
基本的には1面調査として実施したが、遺構の重なり合いが多いうえ、調査区の大部分を占める自然流路（NR01）下面からの検出遺構もあり、第5図と第6図のように2段階に分けて測量・図化した。しかし、この上面遺構（第5図）と下面遺構（第6図）が、包含層2上面と基盤層上面として対応しているわけではない。壁面にかかる遺構は掘り込み面を確認できるが、下面遺構については、上面で見落としていた可能性もある。あくまで、重複関係からの調査・検出における2段階の遺構図として理解されたい。



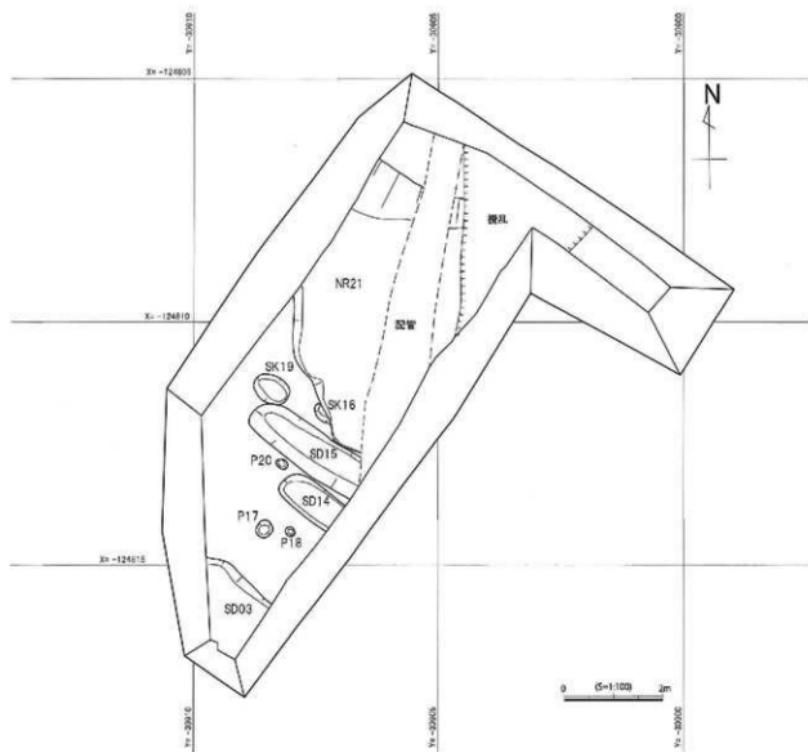
第3図 調査区壁面土層断面図1



第4図 調査区壁面土層断面図 2



第5図 調査区平面図（上面検出遺構）



第6図 調査区平面図（下面検出遺構）

第2節 遺構

本調査では21基の遺構を検出した。約64m²の調査区で、大部分が流路と搅乱であったことを勘案すれば、遺構密度は高いと言えよう。特に基盤層が高いレベルで残っていた調査区南部では狭い範囲に多くの溝や柱穴が残っていた。

遺構種別としては、流路(NR)が2、溝(SD)が5、柱穴(P)が11、土坑(SK)が3である。なお、小土坑のうち、列をなすもの、柱痕のあるものを柱穴としている。

NR01・NR21(第8図)

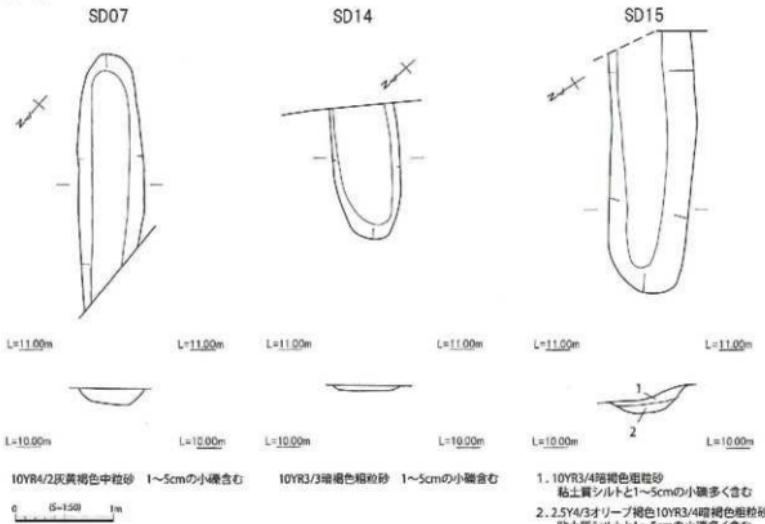
調査区の北部は砂礫層が堆積する大きな落ち込みがあり、調査区西側の山地からの流路と考えられる。上層の流路をNR01、下層の流路をNR21とした。当初、北西壁トレンチの土層観察をした際には同じ流路の上層と下層と考えていた。しかし、NR01底面で後述する柱穴群を検出したこと、および南岸プランの方向が少し異なることから、時期差のある別の流路と判断した。

出土遺物は少なく帰属時期の決め手に欠けるが、NR01からは7~8世紀ごろの須恵器(9と10)が、NR21からは4世紀後半の土師器高环脚部(4と5)が出土している。

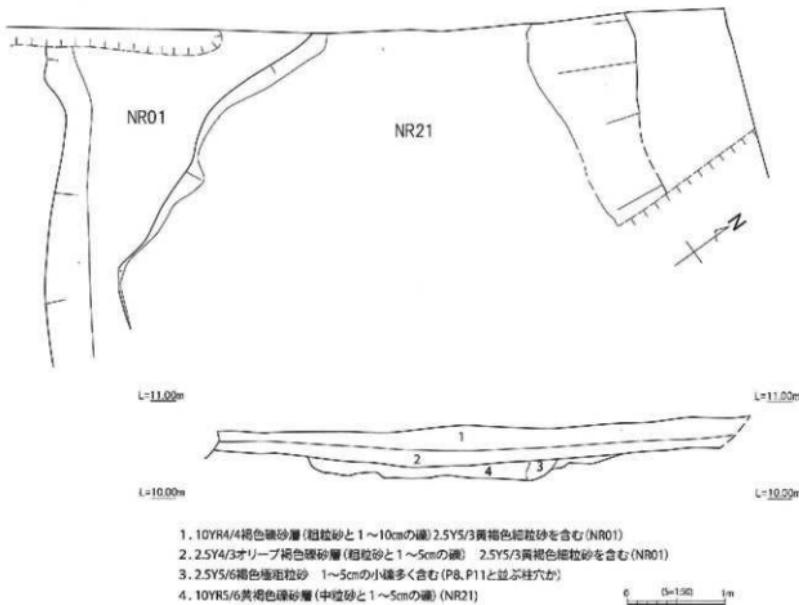
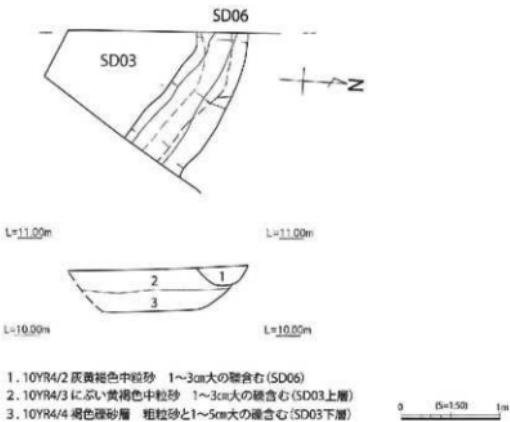
SD03・SD06・SD07・SD14・SD15(第7・8図)

溝はすべて調査区に直行する方向(北西→南東)に延びており、地形に沿ったものである。SD06、07、14、15は規模等も近く、同じような溝が繰り返し掘削されたようだ。しかしながら、その機能・性格は分からぬ。

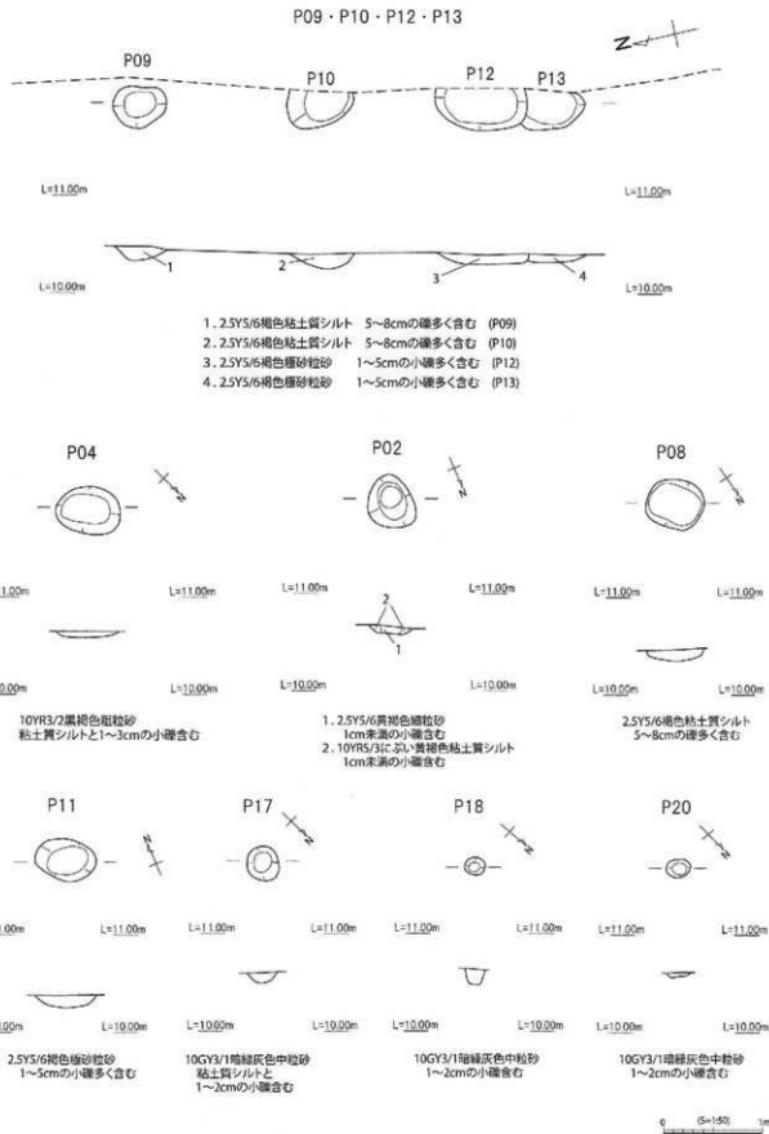
SD07からは、7~8世紀ごろの須恵器杯(6)が出土している。ただし、いずれも出土遺物が少なく、時期は判然としない。SD03については大部分が調査区外であるが、規模も大きく自然流路の可能性もある。



第7図 溝



第8図 溝・流路



第9図 柱穴

P08～13（第9図）

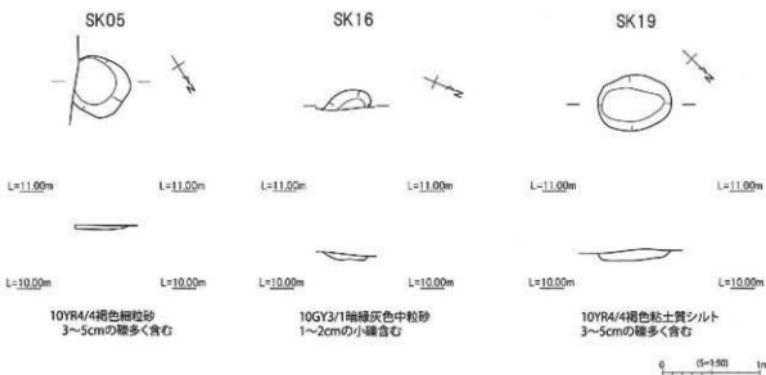
P08～13はNR01の下面から検出された。これらの埋土は砂礫を含む極細粒砂～シルトで、水を含むと明るい黄褐色を呈しており、NR01の掘削時に認識することができた。P09、10、12およびP08とP11が等間隔（約2m）であることから、建物を形成する柱穴であったと考えられる。調査区北西壁に類似する埋土の遺構らしきものを確認しており、柱穴群はさらに北に北西に広がる可能性がある。

遺構の時期は、相対的にはNR01以前、NR21以後であり、P08はSD15の上から掘削されている。ただし、出土遺物がなく、詳細な年代は判断できない。

P02・P04・SK05・SK16・P17・P18・SK19・P20（第9・10図）

調査区南部からはP18のような柱痕跡もしくは杭跡のような径10cm程度の遺構と、土坑とした径30～50cmの遺構が検出された。P02については、柱痕跡がみられた。いずれも深さは10cmに満たず、出土遺物も少ない。

P04は先述のP08・P11と等間隔に並ぶが、埋土や底面レベルが異なることから同一の建物を構成するものではないと考えている。むしろP04とP02の間隔はP08・P11などの柱間隔と同じであり、これらの柱穴が柵列や建物を構成していた可能性がある。



第10図 土坑

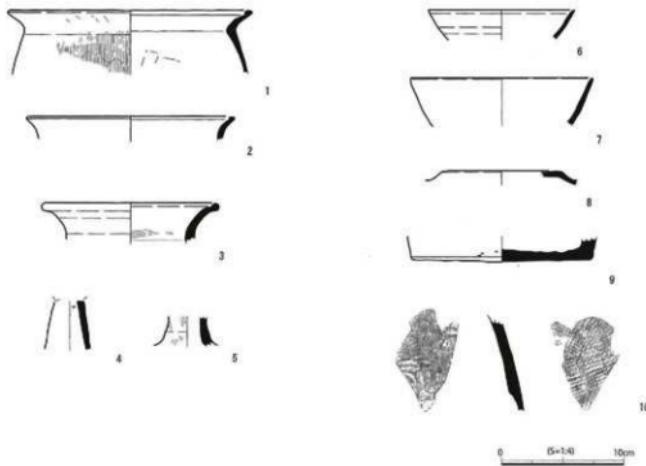
第2節 遺物

出土した遺物は非常に少なく、破片数にして総数 107 点、その内訳は土師器の甕が 78 点、土師器の碗皿類が 3 点、高环 2 点、須恵器の壺類が 7 点、碗杯類が 2 点、黒色土器が 15 点である。ただし小片が多く、あくまで参考程度の分類と理解されたい。

図示し得たものは、10 点のみで、詳細な帰属時期が判断できる遺物は少ないが、4 世紀から 8 世紀、古墳時代～古代の遺物が主である。ほかに SK05 から黒色土器 A 類の破片が出土しているが、明らかに中世と判断できる遺物はなかった。

1～5 は土師器である。1 と 2 は口縁端部が内側に肥厚する布留式上器の甕。1 は外面に縦方向のハケ目が施されている。厚手で肩部がなんだらかな形状からして、布留式新相の製品であろう。P04 からの出土である。2 は小片であり、詳細は不明である。3 は口縁端部に沈線が施される壺である。1 と 2 より厚手、つくりは丁寧で胎土は精良。4 と 5 は高环脚部、これらは 4 世紀後半のものか。ともに NR21 より出土した。

6～10 は須恵器、7～8 世紀の製品と考えられる。6 と 7 は壺、ともに小破片であり、口径復元の精度には不安がある。8 は環蓋の小片。9 は壺の底部、高台のない平底である。内面中央には降下した自然釉がきれいに掛かっている。10 は甕の胴部片、外面は格子状のタタキ目、内面には青海波が観察される。9 と 10 はともに NRO1 より出土した。



第 11 図 出土遺物実測図

第4章 まとめ

五反田遺跡は試掘調査によって新たに確認された遺跡であり、本調査が最初の成果となる。調査面積も小さく、成果は限られたものとなったが、古墳時代の高環や甕が出土し、町内では比較的少ない古墳時代の遺跡である可能性が示された。しかしながら、須恵器（环 A もしくは B）から黒色土器もあり、時期幅がある。中世の遺物はなかった。遺物は少なく、多くは小片で、遺構の時期決定には不安があり、遺構および遺跡の性格も現状では判然としない。周辺の遺跡で言えば、越谷遺跡との関連が考えられるかもしれない。

遺物は少なかったが、狭い範囲ながら、柱穴の存在や同方向の溝が頻繁に掘削されていることから、人間活動の痕跡は明らかである。五反田遺跡は尾根の先端に位置し、利用に適した場所と考えられ、今後の調査において、さらなる成果も期待できるのではないだろうか。



写真8 調査地遠景（島本駅方面から調査地周辺を眺める）

参考文献

- 岩崎卓也ほか編『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣 1991年
- 大阪府史編集専門委員会編『大阪府史 第1巻 古代編』1978年
- 島本町史編さん委員会編『島本町史 本文編』1975年
- 島本町教育委員会『島本町文化財調査報告書』第23集 2013年
- 島本町教育委員会『島本町文化財調査報告書』第35集 2019年

写真図版





1 検出全景（南西から）



2 検出全景（北東から）



1 検出全景（南東から）



1 検出全景（下面検出）（南東から）



1 完掘全景（南西から）



2 完掘全景（北東から）



1 完掘全景（南から）



2 完掘全景（南東から）



1 北西壁断面（南東から）



2 西壁断面（東から）



3 北東壁断面（西から）

写真図版 6
遺構（流路）



1 NRO1 完掘（南から）



2 NR21 完掘（南から）



1 P08 ~ P13 検出（南東から）



2 P08 ~ P13 完掘（北から）



1 調査区南部検出（SD14、SD15、P18、SK19 ほか）（南東から）



2 調査区南部完掘（SD14、SD15、P18、SK19 ほか）（東から）



1 SD15 剖面 (北西から)



2 PO4 半截剖面 (北東から)



3 PO9 半截剖面 (南から)



4 P10 半截剖面 (西から)



5 P18 検出 (北から)



6 P20 検出 (北から)



1 土師器



2 須恵器

報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	島本町文化財調査報告書							
副書名	五反田遺跡発掘調査概要報告書							
巻次								
シリーズ名	島本町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第39集							
編著者名	中村毅							
編集機関	島本町教育委員会							
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目一番一号 TEL 075-961-5151							
発行機関	島本町教育委員会							
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目一番一号 TEL 075-961-5151							
発行年月日	令和2年 6月30日							
所収遺跡名	所在地	市町村 コード 遺跡	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
五反田遺跡	大阪府 三島郡 島本町	27301 29	34 52 39	135 39 32	20200401 ～ 20200417	64.2	校舎増築 仮設校舎 設置に伴う 記録保存	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
五反田遺跡	集落	古墳時代 ～ 古代	流路・溝 柱穴・土坑	土師器・須恵器 黒色土器				

島本町文化財調査報告書 第39集

編集・発行	島本町教育委員会 〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目一番一号 Tel.075-961-5151
印刷・製本	株式会社明新社 〒630-8141 奈良県奈良市南京終町3丁目464番地 Tel.0742-63-0661

